

国立高度専門医療センター関係について（参考資料）

1	国立高度専門医療センターの概要	1
2	国立高度専門医療センターの現状と課題及びこれまでの成果と今後の方向性	4
3	国立病院・療養所等の改革	10
4	国家戦略的医療政策や危機管理に果たす役割	12
5	高度先駆的医療の研究開発の推進	13
6	企画立案に果たす役割(政策提言)	14
7	国立高度専門医療センターが担うべき「政策医療」について	15
8	主要業務指標	18
9	定員の推移(昭和42年以降)	24
10	業務及び組織・定員の減量・効率化に向けた取組状況	25
11	諸外国における同種の業務を行う機関の現状	28
12	在職状況(平成17年1月15日現在)	36
13	実員数(平成17年1月15日現在)	37

平成18年3月16日

厚生労働省

1 国立高度専門医療センターの概要

現 状

- (1) 国立高度専門医療センターは、全国に6センター（8病院）設置しており、総病床数は、4,999床である。（平成17年度末現在）
- (2) 国立高度専門医療センターは、国民の健康に重大な影響のある、がん、循環器病などの特定の疾患に関し、全国の中心的機関として高度先駆的医療、調査研究、技術者の研修及び情報発信を総合的・一体的に実施

〔 国立がんセンター(S37)、国立循環器病センター(S52)、国立精神・神経センター(S61)、
国立国際医療センター(H5)、国立成育医療センター(H14)、国立長寿医療センター(H16) 〕

(参 考) 施設数及び職員数（平成17年度末現在）

区 分	施 設 数 (か所)	病 床 数 (床)	定 員 数 (人)
国立がんセンター	1	1,025	1,325
国立循環器病センター	1	640	996
国立精神・神経センター	1	1,609	1,062
国立国際医療センター	1	925	1,074
国立成育医療センター	1	500	740
国立長寿医療センター	1	300	432
合 計	6	4,999	5,629

概要

国立高度専門医療センター（いわゆるナショナルセンター）は、我が国における死亡数、患者数、医療費のいずれをとっても最も大きな割合を占め、がん、脳卒中、心臓病など、その制圧が国民的課題となっている疾病について、高度先駆的医療の開発・普及、病因・病態の解明、新たな診断・治療法の開発・研究、専門医療従事者の研修及び情報発信を総合的・一体的に行うための中核的機関として設置したものである。

国立がんセンター

- ① 創設年月日 昭和37年2月1日
- ② 所在地 中央病院 東京都中央区築地5-1-1
東病院 千葉県柏市柏の葉6-5-1
- ③ 組織 運営局、中央病院、東病院、研究所、
がん予防・検診研究センター
- ④ 定員数 1,325人
- ⑤ 病床数 中央病院 600床
東病院 425床
- ⑥ 主な事業内容 我が国のがん対策の中核的機関として、がんその他の悪性新生物についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

国立循環器病センター

- ① 創設年月日 昭和52年6月1日
- ② 所在地 大阪府吹田市藤白台5-7-1
- ③ 組織 運営局、病院、研究所
- ④ 定員数 996人
- ⑤ 病床数 640床
- ⑥ 主な事業内容 我が国の脳卒中、心臓病等の循環器病対策の中核的機関として、循環器病についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

国立精神・神経センター

- ① 創設年月日 昭和61年10月1日
- ② 所在地 武蔵病院 東京都小平市小川東町4-1-1
国府台病院 千葉県市川市国府台1-7-1
- ③ 組織 運営局、武蔵病院、国府台病院、神経研究所、
精神保健研究所
- ④ 定員数 1,062人
- ⑤ 病床数 武蔵病院 890床
国府台病院 719床
- ⑥ 主な事業内容 我が国の精神・神経疾患対策の中核的機関として、精神、神経、筋疾患、及び知的障害その他の発達障害についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

国立国際医療センター

- ① 創設年月日 平成5年10月1日
- ② 所在地 東京都新宿区戸山1-21-1
- ③ 組織 運営局、国際医療協力局、病院、研究所、国立看護大学校
- ④ 定員数 1,074人
- ⑤ 病床数 925床
- ⑥ 主な事業内容 我が国の医療分野における国際貢献の中核的機関として、感染症等国際的な調査研究が必要な疾病についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

国立成育医療センター

- ① 創設年月日 平成14年3月1日
- ② 所在地 東京都世田谷区大蔵2-10-1
- ③ 組織 運営部、病院、研究所
- ④ 定員数 740人
- ⑤ 病床数 500床
- ⑥ 主な事業内容 我が国の成育医療の中核的機関として、小児医療、母性医療、父性医療及び関連・境界領域を包括する成育医療についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

国立長寿医療センター

- ① 創設年月日 平成16年3月1日
- ② 所在地 愛知県大府市森岡町源吾36-3
- ③ 組織 運営部、病院、研究所
- ④ 定員数 432人
- ⑤ 病床数 300床
- ⑥ 主な事業内容 我が国の長寿医療の中核的機関として、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾患であって、高齢者が自立した日常生活を営むために特に治療を必要とするものに関し診断及び治療、調査及び研究並びに技術者の研修等を行い、並びに加齢に伴って生ずる心身の変化に関し調査及び研究を行う。

国立高度専門医療センター組織図

【国立がんセンター】

総長	運営局	庶務第一課	他8課
	中央病院	第一領域外来部	他11部
	東病院	外来部	他7部
	└ 臨床開発センター	臨床腫瘍病理部	他4部
	がん予防・検診研究センター	検診部	他3部
	研究所	病理部	他11部4室

【国立国際医療センター】

総長	運営局	庶務課	他3課
	国際医療協力局	計画課	他4課
	病院	総合外来部	他12部
	└ E117 治療・研究開発センター	床研究開発部	
	└ 国際疾病センター		
	研究所	疫学統計研究部	他13部2室
	看護大学校	事務局	他4部

【国立循環器病センター】

総長	運営局	庶務課	他5課
	病院	総合外来部	他17部
	研究所	病因部	他8部、3室
	└ 先進医工学センター	循環動態機能部	他4部1室

【国立成育医療センター】

総長	運営部	庶務課	他5課
	病院	総合診療部	他11部
	研究所	発生・分化研究部	他9部3室

【国立精神・神経センター】

総長	運営局	庶務第一課	他6課
	武蔵病院	外来部	他9部
	国府台病院	外来部	他9部
	神経研究所	疾病研究第一部	他13部2室
	精神保健研究所	精神保健計画部	他10部

【国立長寿医療センター】

総長	運営部	庶務課	他5課
	病院	外来診療部	他9部
	研究所	老化機構研究部	他12部5室

2 国立高度専門医療センターの現状と課題及びこれまでの成果と今後の方向性

【国立がんセンター】

《現状と課題》

- “がん”に関し、高度先駆的医療、調査研究、研修、情報発信を実施
- 政府の対がん総合戦略推進の中心的機関として事業をリード
- 高度な医療、研究に裏打ちされた研修、情報提供を組織的・継続的に実施
- 「がん対策情報センター(仮称)」による情報発信の充実・強化が必要

《これまでの成果と今後進めていくべき方向性》

医 療

- 手術、薬物治療、放射線治療による集学的治療を推進し世界に誇る実績
- 患者の治癒率(5年生存率)は、開設当初の40%から64%へ大幅に改善
- 「発見率5%以上・早期がん」という高精度/高発見率のがん検診を実施
- 陽子線治療やCT/MRI撮影が可能な手術室の開発等高度先駆的医療を実施
- 外来薬物治療を積極的に展開し我が国の「外来抗がん剤治療」をリード

研 究

- 臨床応用に重点をおいた「がん研究助成金」を運営し、がん研究をリード
- 全国規模の大規模住民調査(コホート調査)を行い、がんの発生原因を調査
- 最大の抗がん剤治験実施施設であり、多施設共同臨床試験の中核施設
- 日常生活におけるがん予防指針として「がん予防12か条」を国民に提唱
- ゲノム・遺伝子解析による発がん機序の解明に道筋
- 新しい診断方法を開発し全国展開し、「がんの早期発見率」を向上
(例：胃透視検査の二重造影法やヘリカル(らせん状)CT等の開発)

研 修

- がん専門医師の養成(レジデントコース等：年約70名、延740名)を実施
- がん薬物療法専門医(今年度制度化)の約半数が、当センター研修者
- 他の病院から、がん診療専門家の研修を受入
(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師及びがん登録専門家)
- 海外から、がん専門医等の研修を受入

情報発信

- がん対策の企画立案に資する情報の収集・分析・提供(政策提言)
(がん対策情報センターの設置)
- ホームページ等により 患者・国民向けに、正確かつ適切な情報を提供
(ホームページヒット数：約100万件/月(H16年4月))
- 外国のがんセンター等との交流を通じ我が国のがん医療等の情報発信
- 胃がんとたばこに関する「WHO協力施設」に認定され情報発信
- がんに関する国際会議に日本を代表して参加
- 政策医療ネットワーク(全国で55施設が参加)の頂点として情報提供

そ の 他

- がん医療水準の「均てん化(標準化)」に対する中心的役割・推進機関

【国立循環器病センター】

《現状と課題》

- “循環器病”に関し、高度先駆的医療、調査研究、研修、情報発信を実施
- 高度な医療、研究に裏打ちされた研修、情報提供を組織的・継続的に実施
- 今後、新たな予防・治療法開発から社会復帰に至る総合的な国家的対策が必要

《これまでの成果と今後進めていくべき方向性》

医 療

- **我が国の心臓移植（高度先進医療）の半数を実施する中心的施設**
- **高度先駆的医療の開発により、「致命的」な循環器病の死亡率を低下**
 - ・センターで開発した補助人工心臓(420台)・人工肺（2万台）を全国普及
 - ・難治性・致死性不整脈の診断・治療法の開発
 - ・我が国初の肺高血圧症の画期的な薬物治療の確立 等
- 急性期の脳卒中に、脳卒中集中治療ユニットを導入し顕著な治療成績
- **低侵襲手術の確立(ロボット等)や精度の高い診断・治療法の確立**等を推進
- 胎児から成人に至る心臓手術件数は全国唯一（開心術年800例以上）

研 究

- **臨床応用に重点をおいた「循環器病研究委託費」を運営**し同研究をリード
- **産官学連携を進め臨床実用への研究開発(トランスレーショナル・リサーチ 等)を推進**
- 数多くの特許出願（200件(H17.11)）
 - *脳梗塞や心筋梗塞等の原因となる難治性血栓症の確定診断用検査キット等
- **患者のQOLを高める「完全埋め込み型人工心臓」等を開発研究中**
- 生体内の生理活性ペプチド発見と新薬への応用による治療成績の向上
- **再生医療、オルガノイド医療の実施に向け先駆的な研究を網羅的に実施**
- **高度先端医療機器を早急に実用化**するため「先進医工学センター」を設置

研 修

- **循環器病専門医師の養成**を実施(レジデント等：年約130名、延1,200名超)
- 国内外の機関から循環器病診療専門家研修を受入(開設以来1万人超)

情報発信

- 「循環器病診療総合支援全国ネットワークシステム」(循ネット)を運用
- **循環器専門医及び一般国民向けに情報発信**
 - *循環器病に関する疫学、標準的医療等や予防、診療及び研究活動を支援するデータベースの構築

そ の 他

- 循環器病は健康施策の基本的課題。国のリーディングと推進機関が不可欠
- 国際競争力の観点から、国の科学(医学)の代表機関の位置づけが必要
- **循環器病医療を担う高度な専門医を養成し全国の大学・医療機関へ輩出**
 - *教授80名超(現職40名)、基幹病院部長等約200名(現職127名)。看護師・技師も同様。
- **循環器病医療の均てん化に貢献**

【国立精神・神経センター】

《現状と課題》

- “精神・神経・筋・発達障害”に関し、高度先駆的医療、調査研究、研修、情報発信を実施
- いわゆる「社会的入院」が多い精神疾患患者の退院促進と地域ケアの確立
- 医療観察法の円滑な運営と、指定医療機関間ネットワークの構築・強化
- 我が国の自殺(年間3万人超)対策の中心的機関として事業をリード

《これまでの成果と今後進めていくべき方向性》

医 療

- 難治性の統合失調症・うつ病等に、研究成果に基づくモデル医療を提供
- 我が国で初めて、専門的な精神医療分野に専門医療を提供
(登校拒否など児童思春期精神疾患、薬物依存、睡眠障害など)
- 「医療観察法」に基づく入院病棟を開設(我が国初)するとともに、他施設の専門スタッフに対する研修を実施
- パーキンソン病・筋疾患治療の中核病院としてあらゆる治療法等を提供
- 1万以上の筋検体を保存する筋ジストロフィー確定診断の中核施設

研 究

- 精神保健医療に関する政策研究を実施し、制度改廃の企画立案に参画
(精神保健福祉法、医療観察法、診療報酬等)
- 我が国へ精神医療の退院促進や地域包括的ケア(ACT)を研究し導入
- 稀少神経難病を研究し、発生原因の解明と治療法の開発
(筋ジストロフィー、ALS等)
- 臨床還元を指向し、生体バンクや実験動物などの研究基盤を整備
→筋ジストロフィーでは、遺伝子治療の実用化が目前

研 修

- 精神・神経疾患専門医師の養成(レジデント等:年約80名、延1520名)を実施
- 自治体(精神保健福祉センター、保健所等職員)から精神保健技術研修の受入

情報発信

- 「自殺予防総合対策センター」を設置し、関係者や国民一般へ情報発信
- WHOに対して我が国の精神疾患の状況を提供する中核的機関
- 神経難病の治療法等の普及啓発や精神疾患に対する偏見解消等を促進
- 研究成果を診断・治療ガイドライン(例:摂食障害など)として提供

そ の 他

- 医療観察法の運用に関する中心的機関(診療、研究、研修、情報発信)
- 国の政策を円滑に実施するため、自治体職員に対する研修の受入
- 政策研究は本省の企画・立案機能と一体となって制度改正に寄与(参画)

【国立国際医療センター】

《現状と課題》

- 総合診療機能を持つ医療機関の特徴を活かし、高度総合医療の推進、国際医療協力、感染症対策、国際医療に関わる研究、教育研修活動を実施
- 世界規模の新興・再興感染症の征圧及び開発途上国における生活習慣病の増加等に対する国際保健医療協力の中核機関

《これまでの成果と今後進めていくべき方向性》

医 療

- 専門領域を超えたチーム医療による全人的な高度総合医療を実践
- 全国最大・最先端のH I V医療施設
 - *実践(あきらめない治療)と治療法の普及
- 新型インフルエンザなどの新興・再興感染症の征圧
(国際疾病センター、特定感染症病床の設置)
- **総合診療機能を活用した代謝症候群対策の中核機関**
- **海外拠点を活用した診断・治療法の開発、人材養成、共同研究の推進**

研 究

- 国際的感染症の解明と克服、院内感染、バイオテロリズムへの対処
- 国際医療方法論の開発(医療生態学、適正技術開発、医療保健システム開発等)
- **ゲノム解析に基づく代謝症候群等へのテーラーメイド医療の開発**
- **ES細胞等を応用した再生医療の推進**
- **国際臨床研究センター(H18.10.開設)を中核とした国際共同臨床研究の推進**

研 修

- エイズ専門修練医及びエイズコーディネーター看護師の育成
- 高度総合診療機能を活かし、新たな医師臨床研修制度をリード
- 国際協力を担う派遣専門家の養成(年約15名、延約100名)を実施
- **臨床研修実績を踏まえた医療安全教育システムの体系化**

情報発信

- 世界の保健医療情報の収集及び発信(渡航者健康管理・感染蔓延防止等)
- 最先端のエイズ医療情報の提供(Aネット)
- 国際医療協力情報を国立病院機構との間でネットワーク化し情報共有

国際医療協力

- ユニバーサルな保健医療サービスの実践及び関係機関へのフィードバック
(二国間/多国間協力の実施、専門家の派遣 H16年度延28か国154名派遣)
- 開発途上国の医療従事者の人材育成(H16年度延54か国250名受入)
- WHOコラボレーティングセンターとしてポリオ根絶等、国際戦略に協力
- 国際医療協力に係る戦略策定、我が国の国際医療協力に向けた政策提言

国立看護大学校

- 高度専門医療分野で活躍する看護師等の養成
- **看護学研究科に政策医療看護学専攻修士課程を設置し研究・教育を拡充**
- **政策医療分野における看護学研修の認定看護分野の拡充**

【国立成育医療センター】

《現状と課題》

- 「成育医療(*)」という新たな概念の確立と普及
(*誕生から思春期、成人への発育発達を通じて次世代までを包含した医療)
- 少子化対策への臨床医学と社会医学の観点からの政策提言に係る中核的機関
- 医師確保や小児難病などに対するモデル医療や先進医療の開発・普及

《これまでの成果と今後進めていくべき方向性》

医 療

- **成育医療に係るスタンダードの創出と確立及び医療の質の保証**
 - ・ こころの医療や胎児治療、小児難病、生殖補助医療の開発
 - ・ 病理や放射線等の中央診断機能、臨床検査標準値などの確立
- 小児救急に対するモデル的な提供体制の構築
 - ・ 24時間受入(年間約4万人)しトリアージ結果をモデルとして全国に発信
- 生涯を通じた女性の健康づくりの推進(健康フロンティア)
 - ・ 女性の身体的・心理的特徴に対して研究と連携した専門外来を開設

研 究

- **子どもが誕生するまでのメカニズム解明と治療応用**
 - ・ 受精・着床のメカニズム解明。不妊症・周産期異常の原因解明と治療法の開発。胎児期に発症する疾患の診断、治療法の開発研究。
- **病める子どもを癒す新たな治療法の開発**
 - ・ 先天/小児難治性疾患の発生機序解明。遺伝子/細胞治療法。再生医療開発
- **子どもの心・社会性発達に歪みを来す原因究明と研究の推進**
- 母性小児医療のデータベース構築とその解析によるエビデンスの創出

研 修

- **成育医療を担う専門医師の養成**(レジデント等:年約40名、延150名)を実施
- 他の病院から、成育医療専門家の研修を受入(年間約350人)
- 緊急に体制整備が求められる小児救急認定コースを実施(年間約300人)

情報発信

- 電子カルテシステムの提言と応用(各種データベースを構築中)
- **妊婦や子どものための安全なクスリ情報の中央センター機能**
- メルマガを活用した国民向けと医療従事者向けの情報発信

そ の 他

- **次世代を担う小児の育成は、国のリーダーシップと推進機関が不可欠**
- 国際競争力の観点から、国の科学(医学)の代表機関の位置づけが必要
- 安全で安心な医療の提供には、人材育成に加えて質を保証する機関必要

【国立長寿医療センター】

《現状と課題》

- 「高齢者医療・介護技術」の開発、標準化、普及啓発を通じて、高齢者の心と体の自立を促進し、長生きを喜べる健康長寿社会の構築に貢献
- 病院と研究所の一体化による相乗効果を発揮し、診断治療、調査研究、研修、情報発信

《これまでの成果と今後進めていくべき方向性》

医 療

- 老年病に対する再生医学、遺伝子治療等の高度先駆的医療
- 認知症や骨粗鬆症等で喪失した心身機能の再建及び回復に関する医療
- 高齢者の心身特性に配慮した全人的・包括的医療(高齢者総合機能評価の推進)
- 老年病のモデル的医療・標準的医療の均てん化
 - ・ 認知症等の老年病の効果的治療法の発見
 - ・ 高齢者の在院日数短縮化(平均21日)と医療費減少(約5%)及び普及
 - ・ 高齢者の終末期医療の標準化の確立と普及

研 究

- 老化メカニズムの解明及び老年病に対する総合的研究
- 疾患の解明や克服のため基礎的研究成果を診療に応用する応用研究
- 長寿医療・長寿社会に関する政策、医療経済等の社会医学や福祉的研究
 - ・ アルツハイマー病の治療法(ワクチン療法)開発(マウス/サルで成功)
 - ・ 骨粗鬆症の早期発見と治療薬の開発
 - ・ 介護予防のエビデンスの構築(生活不活発病の予防・改善)
 - ・ 看護・介護支援機器の開発(ロボット等)

研 修

- 長寿医療専門医師の養成(レジデント等:年約10名、延200名)を実施
- 長寿医療分野の高度総合診療機能を活かした医師臨床研修の実施
- 他の病院等から長寿医療専門家の研修受入
* 認知症特化医養成研修、第一線臨床医への全人的・包括的高齢者医療の普及

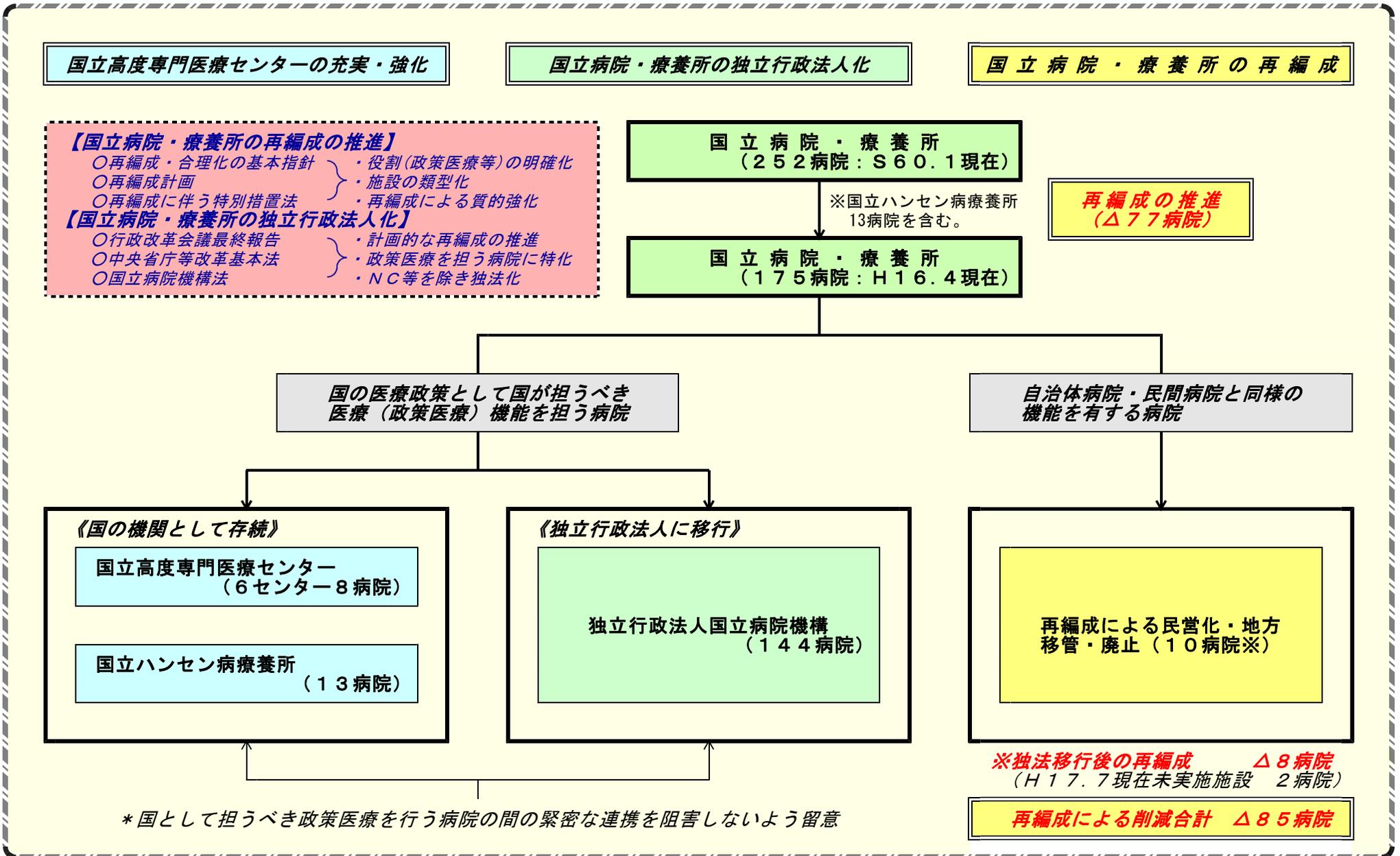
情報発信

- 長寿医療に関する情報発信及びデータベース化の構築
- 国際交流・国際協力の推進(国際シンポジウムの定期的開催)
- 産学官連携プロジェクト(あいち健康長寿産業クラスター推進事業等へ参画)

そ の 他

- 長寿社会に対応する老年病の克服は国のリーダーシップと推進機関が不可欠
- 国際競争力の観点から、国の科学(医学)の代表機関の位置づけが必要
- 優秀な指導者の育成・確保は、国の長寿医療対策の根幹として不可欠
- 安全で安心な医療の提供には人材育成に加え質を保証する機関が必要

3 国立病院・療養所等の改革



国立高度専門医療センターの充実強化と国立病院・療養所の再編成

国立高度専門医療センター		国立病院・療養所の再編成等による国立高度専門医療センターの充実強化
施設名	創設年月日	
国立がんセンター	昭和37年2月1日	○平成4年7月1日、国立柏病院と国立療養所松戸病院を統合し、「東病院」及び「研究所支所(現：臨床開発センター)」を開設
国立循環器病センター	昭和52年6月1日	
国立精神・神経センター	昭和61年10月1日	○昭和61年10月1日、国立武蔵療養所、同神経センター及び国立精神保健研究所を統合し開設 ○昭和62年4月1日、国立国府台病院を統合 ※平成19年5月1日、武蔵病院と国府台病院を統合一元化し、国府台病院を廃止(予定)
国立国際医療センター	平成5年10月1日	○平成5年10月1日、国立病院医療センターと国立療養所中野病院を統合し開設
国立成育医療センター	平成14年3月1日	○平成14年3月1日、国立大蔵病院と国立小児病院を統合し開設
国立長寿医療センター	平成16年3月1日	○平成16年3月1日、国立療養所中部病院と同長寿医療研究センターをセンター化

4 国立高度専門医療センターの国家戦略的医療政策や危機管理に果たす役割

○戦略的医療における役割（先駆的医療の開発・普及など科学技術政策上の役割）

- ・国民、特に働き盛りの世代の死亡原因の上位を占めるがんや循環器病及び少子・高齢化社会を迎え重要性が増している
成育・長寿医療に対する先駆的な医療の開発、標準化・均てん化（地域格差の是正）

○国家の危機管理や積極的国際貢献における役割

- ・国際感染症（SARS、新型インフルエンザなど）侵入時やスマトラ沖地震等の災害発生時における迅速な対応

○社会的な経緯等により地方・民間での対応が困難な領域での役割

- ・薬害エイズの最終治療拠点や総合的な自殺予防対策(自殺予防総合対策センター)の確保

○国が、いわば「最後の砦」としての役割を果たすことが必要な領域

- ・進行性筋ジストロフィー、ALS（筋萎縮性側索硬化症）等の神経難病などに対する医療や心神喪失者等医療観察法における指定入院医療機関の確保

○国家的見地から重要な医療政策を実践する役割

- ・抗がん剤等承認が急がれる医薬品の治験の実施や専門家の養成

5 高度先駆的医療の研究開発の推進

